

# 事業報告

## 企業集団の現況に関する事項

### 事業の経過及び成果

当社第 49 期（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）における事業の概要につきご報告申し上げます。

当事業年度の世界経済は、一部弱含みの展開となったものの、全体では緩やかな回復傾向となりました。ユーロ圏及び中国においては GDP 成長率がそれぞれ 1.8%、6.6% と鈍化し、米中貿易摩擦や Brexit の先行き不透明感など、景気の下振れリスクが高まっているものの、米国経済においては引き続き堅調な雇用・所得環境が経済成長を支えました。ASEAN 主要 5 ヶ国では、国別でばらつきがあるものの、タイやベトナムの堅調な成長に支えられ、域内ではほぼ横ばいの 5.2% の成長率となりました。インドにおいても家計消費環境の改善を下支えに 7% 台の成長率を回復するなど高い成長を続けております。

わが国経済においては、米中貿易摩擦のあおりを受け力強さには欠けたものの、雇用環境の着実な改善や個人消費の持ち直し、企業設備投資の大幅な増加など、景況感の改善がみられました。

このような環境の中、当社グループは中期 5 ヶ年計画の 2 年目として、2018 年 4 月に ARBROWN INDIA TRADING Pvt. Ltd. の営業を開始し、韓国法人では AR BROWN KOREA Co., Ltd. として新たに事業を展開するなど、アジアのブラウンへ一層歩を進めてまいりました。

当事業年度の売上高は、原材料系事業での輸出の鈍化があり 100 億 49 百万円と前期比 1.8% の減収となりました。営業利益では、中期計画の達成に向けた人材への投資に伴う人件費の増加や、社内環境整備での費用増加などがあり 3 億 79 百万円と前期比 11.5% の減益となりましたが、前期に発生した一時費用の減少により、経常利益では 4 億 65 百万円と前期比 1.9% の増益となりました。

上海布朗商行有限公司、AR BROWN (THAILAND) Co., Ltd.、ブラウンテクノロジーズ株式会社との連結決算では連結売上高 114 億 53 百万円と前期比 1.6% の増収となりました。これはグローバル企業への転換として、中国を中心にアジア地域において売上を伸長させることが出来たことに起因するものです。その結果、連結営業利益では 8 億 77 百万円、連結経常利益は 8 億 44 百万円とそれぞれ前期比 12.8%、16.7% の増益となりました。

第 50 期は、当社創業 70 周年を迎えます。グローバル企業として世界経済の不透明さという波に吞まれず、新しい価値の創造に貢献するという経営理念に沿い、より一層邁進してまいります。

当事業年度の事業別実績、概況は下記の通りです。

電子材料事業は、連結ベースで 0.4%、11.1% の微減収増益となりました。秋よりコーティング材のタイ生産による現地調達が始まったこと及び期初に中規模ビジネスを日本から中国に移管したため、日本は減収、一方中国、タイ、韓国は増収となりました。カーエレクトロニクスセグメントでは全域で昨年度に続き伸張し、先述の増益の源となりました。ADAS(先進運転支援システム)関連機器向け放熱材料ビジネス、インフォテインメント関連機器向けコーティング材ビジネスが貢献しました。家電・情報通信セグメントはタイでは家電向けコーティング材ビジネスが大幅に伸長したものの、中国は年度終盤に景気減速の影響を受けました。注力分野と位置づけたエレクトロニクスケミカルセグメントの放熱フィラーは採用顧客数を増加させ、かつ製品ラインナップの拡充も同時に進められ、来年度以降本格的な成長が期待できる段階に漕ぎ着けられました。韓国法人は社名変更と共に軸足を商社業にシフトし、カーエレクトロニクスと 5G 関連エレクトロニクスケミカルセグメントに的を絞った営業活動を開始しました。

機能化学品事業は、連結ベースで 6.2%、5.9% の減収減益となりました。4 月に合意に至ったビジネス譲受は 6 月より実績化でき、化学品原料ビジネスの伸長に寄与しました。バイオサイドビジネスも中国サプライヤーの供給問題に直面したものの、それを乗り越え伸長させることが出来ました。タイヤセグメントは中国での伸長が寄与し増収でした。また新製品の顧客評価が進捗し、2020 年からの業績への寄与が期待できる段階となりました。一方塗料・インキセグメントは樹脂サプライヤーの値上げによるビジネスロス分を添加剤ビジネスの伸長ではカバーしきれず低調に終わりました。粘接着剤セグメントは米国サプライヤーのハリケーン被害に基づく供給問題が発生しましたが、影響を最小限度に抑え、微減収で収めることができました。パーソナルケア・トイレタリーセグメントでは複数の新規商材を立上げることができましたが、一部商品の品質問題もあり減収となりました。

精密化学品事業は、7.7%、13.7% の増収増益となりました。新薬セグメントでは従来ビジネスが伸長しました。バイオ医薬セグメントでは大手製薬会社から ADC(抗体薬物複合体)のフィジビリティースターディー案件を受注しました。ジェネリックセグメントは減収でしたが、OTC(Over The Counter)医薬品向けを含めて、インド法人と連携し、原薬、中間体の品数を増やし、複数の大手製薬会社にてスペックイン評価に進めることが出来ました。食品検査セグメントはインドネシア保健省より残留農薬検査キットを大量受注したことにより伸長、また畜産市場向け食品検査ビジネスも昨年度に続き伸長しました。航空宇宙セグメントは新規商材のスペックイン活動を行いつつ、既存ビジネスも伸長しました。

ライフサイエンス事業は、0.2%、1.5% の増収増益でした。バイオ基礎研究セグメントは増収増益、医薬品・医療機器製造会社の品質管理工程向け滅菌関連商材ビジネスは昨年度に続き二桁伸張し、また畜産ブリーディングビジネスも伸長したことにより、昨年度末で取扱いを止めた商品のビジネスロス分を相殺しました。ナノメンブレンは従来の主要顧客が関連ビジネスから撤退することとなりましたが、代わりに多数の顧客との新規プロジェクトを開始することができました。ブラウンテクノロジーは不妊治療に関するワークショップを複数回開催し、PGT(着床前検査)の有用性について取扱い関連機器のデモンストレーションも含めて専門家との活発な意見交換を行い、当該機器の販売にも繋げました。

電子機器事業は、連結ベースで 20.5%、18.4% の増収増益でした。自動車セグメントは国内、中国共に ADAS( 先進運転支援システム ) 関連の試験計測機器ビジネスが大幅に伸長し、日本では圧力分布計測機器の販売も伸長しました。タイヤ産業向けには、既存商品ビジネスの伸長に加えて、新規商品の販売も開始でき、更に提案の幅が広がりました。加速度センサービジネスを中心に、航空宇宙セグメントも堅調に推移しました。エレクトロニクスセグメントでは、新製品のサーモストリーマーのプロモーションを開始しました。新セグメントとして中国で大型病院を対象に医薬品自動分包機の販売を開始し、1 月に 1 号機を納入することが出来ました。